

2018年1～2月掲載分

2018年3～4月掲載分

習志野 大慈弥 爽子

さし交はず枝の先まで春隣
洗濯も掃除もしたくなる三日
海を恋ふ音たて乾きゆく若布
金縷梅のいちげ加減をひからせる
剪定を尽くしすっからかんの枝

藤沢 藤田 富子

黄落の池にきらめき散らしけり
いにしへの名刹の跡落葉降る
凧わたる海一望の冬日和
眼科医の俳句談義や十二月
短日の刻の過ぎゆく探しもの

八王子 石井 蓉子

行商の声の届きしも柚湯かな
明日冬至店の角占めゆず売り場
通院を終へそれよりの年用意
作業所につけば声来る霜の朝
クリスマスサンタ待ちたる早寝かな

町田 小森 まさひこ

水仙の咲きて日本海荒ぶ
雪壁を登校路とせる小学生
大雪を靴に語らせ集ひたる
薄氷を進みゆく日の刻々と
雪富士のダイヤモンドの夕日かな

2018年5～6月掲載分

2018年7～8月掲載分

2018年9～10月掲載分

2018年11～12月掲載分